

東大病院として初の人間ドックは、昨秋に本郷キャンパスに完成した「中央診療棟2」の6階の検診部に開設された。7月2日の運営開始に向けて、予約の受付(■03・5800・9033、平日午後1〜4時)も始まった。出来立てのパンフレットには、「従来型の検診・人間ドック施設とは一線を画する、新しい時代の検診部を設立した」とある。おそろく最新鋭のハイテク機器がデンと鎮座しているのだろう、などと想像しつつ室内をのぞくと、ちょうど拍子抜け。準備された機器の多くは、小ぶりで、いた



身長や血圧など各種の測定機器が並ぶ

つてシンプルだ。

東大大学院医学系研究科臨床疫学システム講座教授で、人間ドックを統括する山崎力・検診部長は、こう説明する。「奇をてらったものでなく、ここでは科学的に証明された根拠のある検査を行います。ですから、特別、変わったものを用意していません。逆に言えば、根拠のない検査はいたしません」

近年、人間ドックや健康診断で、科学的な根拠にもとづかない項目まで検査をすることが批判されている。今回の東大病院ではその辺に配慮を加えている。

山崎部長は、「根拠のない検査」の一例として、血液を採取して赤血球の様子などをモニターで見ると、いわゆる「血液サラサラ」のチェックを挙げる。確かに、見た目は派手で一般受けしやすいが、科学的にはこの検査の有効性は認められていないというのだ。

左ページに、「基本検診」のメニューを掲げたが、たしかに、山崎部長の言うようにオートドックスではある。だが、血液検査などは総たんばく、アルブミンなど40項目以上にわたり数値を測定し、きめ細かく健康状態を調べる。料金は、食道や胃などの状態

を診る、上部消化管内視鏡検査を含まないタイプで、5万2500円。人間ドックの料金は、使用する機器や検査内容によって異なり、一概に比較するのは難しい。なかには日帰りの基本セットで4万円前後の料金設定をする施設もあるが、まずは手ごろな値段だ。

アフターサービス充実

かなりのおトク感があるのは、アフターサービスだろう。基本検診は平日の午前中に行われ、昼には終わる。最後に、血液検査などの当日判明分のデータを基に、担当医が結果説明や食生活の指導をする。約2週間後、担当医のコメント

付きの正確なデータが郵送されるが、その結果を見て、気になる点などがあれば、受診者は予約のうえ、無料で担当医の詳しい説明を直接聞くことができるのだ。もちろん、異常が見つかった場合は、すみやかに東大病院での専門外来の予約、精密検査の手配や、他の病院への紹介状の作成などもしてくれる。

「1日あたりの受診者数が少ないので、一人ひとりに対し丁寧なフォローができるんです」と山崎部長は言う。

開けば、受診者数は、1日限定10人。検診部の人員や規模の問題などあって、その人数に落ち着いたのだという。

理由のひとつには、設置機器

東大病院に新型「人間ドック」誕生 限定1日10人! 売りは「心血管」

幕末の神田お玉ヶ池痘所開設から数えて、来年で150周年。そんな歴史と伝統のある東大病院に、初の「人間ドック」が誕生する。従来のドックとは一味違う、との触れ込みだが、何が画期的なのか。運営開始を前に、その全貌を紹介しよう。 本誌 関仁巳／撮影 吉川努

の問題がある。胸部エックス線や内視鏡検査は、外来や入院患者の診療で使用している機器を共同利用しなければならぬ。東大病院には、1日に3000人以上もの外来患者が訪れるので、一定の枠に収める必要があるのだ。

前記の検査は、同じ棟内ではあるが、別のフロアで行うことになる。それでも、検診前の説明から、最後の支払いまで、看護師が受診者に付き添ってサポートするので、さしあたって迷子になる心配はない。

能のリスクマーカーのBNPなどの数値を測定する。

脈波伝播速度(PWV)は、心臓から押し出された血液によって生じた拍動が、手足に到達する速度を測定する。血管壁が硬ければ硬いほど、その速度は速くなる。この検査は、心臓病や脳血管障害など、さまざまな病気を起こす要因となる動脈硬化の度合いを診るのに有効なのだ。

仮面高血圧の追跡調査も

導入の時期は未定だが、東大

運営開始に向けて打ち合わせする検診部のスタッフら



基本検診に追加して受診する「オプション検診」には、子宮がんの検診などがある。なかでも、目玉としているのは、循環器疾患や脳血管疾患の早期診断を目的に、心臓や血管関連の精密検査を施す「心血管ドック」だ。

表にあるように、ここでは、5種の検査を行う。心エコー、血管(頸動脈)エコーは、超音波を使って心臓や血管の状態を診るものだ。上下肢血圧比(ABI)は、両方の上腕部と足首の血圧を同時に測定し、血管の狭窄の程度を診る。特殊血液検査は、心臓から分泌されるホルモンで、心機

東大「人間ドック」の利用料金

基本検診	料金(税込み)
上部消化管内視鏡検査あり(計16項目)	6万3000円
上部消化管内視鏡検査なし(計15項目)	5万2500円
■オプション検診	
心血管ドック(パック料金)	
①上下肢血圧比(ABI)	5万2500円
②脈波伝播速度(PWV)	
③心エコー	
④血管(頸動脈)エコー	
⑤特殊血液検査	
大腸がん検診(下部消化管内視鏡検査) ※準備中	2万5200円
肺がん検診(胸部CT) ※準備中	1万5750円
乳がん検診(マンモグラフィーのみ) ※準備中	5250円
同(マンモグラフィー+乳腺エコー) ※準備中	1万500円
子宮がん検診(内診、子宮頸部細胞診)	1万500円
腫瘍マーカー検診	1万500円
口腔・歯科検診 ※準備中	8400円

- 基本検診のメニュー
- ①問診②身体計測(身長、体重、腹囲、体脂肪率、血圧、脈拍)
 - ③視力検査④聴力検査⑤眼圧検査⑥眼底検査⑦血液検査
 - ⑧検尿⑨便潜血(2回法)⑩呼吸機能検査⑪骨密度⑫心電図
 - ⑬胸部X線⑭腹部エコー⑮上部消化管内視鏡⑯内科診察

病院検査部と共同で、血管の内壁の細胞の弾力性を診る、血管内皮機能検査も検討している。同じく検討段階であるが、「仮面高血圧」の追跡調査も視野に入れている。

仮面高血圧とは、本来は高血圧なのに、検診時は、診察を待つ間にリラックスして、ふだんよりも血圧が低く出てしまうこと。測定された数値には問題がないため、自分は健康であると思いがちだが、それが落とし穴になる危険性がある。喫煙者や強いストレスを抱える人などに、仮面高血圧の傾向は見られやすい。

現在、山崎部長は順天堂大や国際医療福祉大との共同研究で、この仮面高血圧の調査を進めている。それは、小型発信器付きの特殊な血圧計を配布して、1日数回、測定した血圧値をリアルタイムで受信し、記録するというもの。人間ドックでも、仮面高血圧になりやすいタイプの受診者のうち、希望者を対象に、同様の調査を行う考えだ。

この研究のように、病気の早期発見、予防にとどまらず、人間ドックを介して各種のデータを蓄積し、予防医学そのものの発展に寄与することが、ドック開設のねらいでもある。

検診部の担当医は、山崎部長を含め5人。数は少ないが、それぞれが大学院で講座を持つ。その道のプロフェッショナルである。また、学内には、これまでに培われたさまざまな基礎研究の「タネ」が転がっているし、外部とのネットワークもある。

担当医の一人で、循環器内科が専門の鈴木亨医師は、「がん関連では早期診断に有効なリスクマーカーがいくつも発見されていますが、動脈硬化については、まだまだ研究は不十分です。新たなリスクマーカーの探索、発見につなげていければ」と意欲を燃やしている。

ドックの規模は小さいが、大きな成果を期待したいところだ。W